

ネットワーク

本源へ、世界へ

2008年に文学部同窓会に公式な事務局が誕生しました。これを機に、同窓生と教職員と在学生のネットワークを確立すべく、冊子を発行しています。年1回、定期的に発行していきますので、情報交流の場所として、発言の場所としてご利用ください。

東北大学文学部
同窓会会報
2013年9月
vol.6

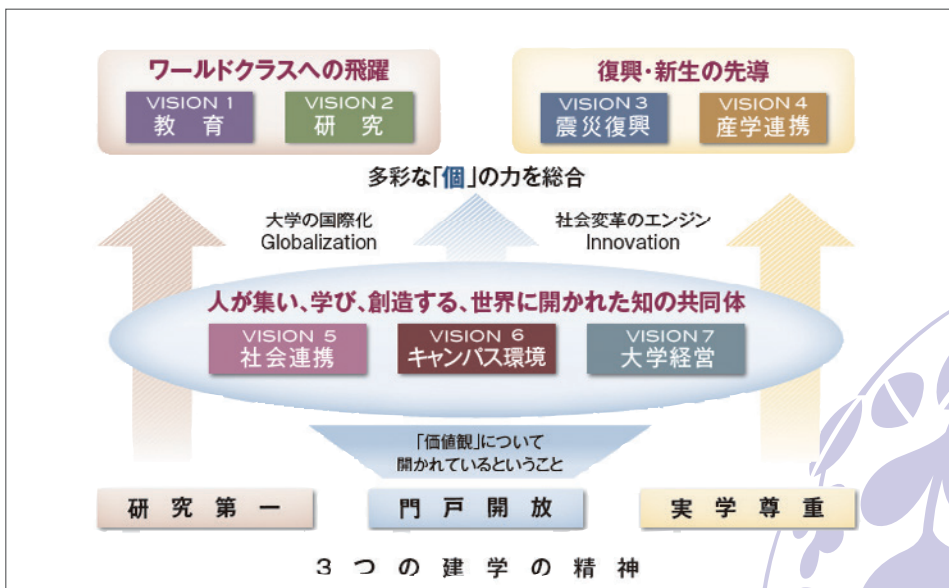
東北大学の新しい指針となる 「里見ビジョン」が公表されました

2013年8月、里見進総長が、今後の本学のあるべき姿として、7つのビジョン（私たちが目指すこと）と、その実現の柱となる施策や工程表を定めた「里見ビジョン」（2013～2017年度）を公表しました。

ビジョンの全体イメージは図のようなものであり、「ワールドクラスへの飛躍」と「復興・新生の先導」が2大指標となっています。そして、7つのビジョンは以下のとおりです。

「里見ビジョン」については、東北大学の公式ホームページ<http://www.tohoku.ac.jp>の「2013年ニュース」にアクセスして全文を読むことができます。全学あげての連携、協働に取り組んでいきましょう。

■「里見ビジョン」の全体イメージ



■「里見ビジョン」の7つのビジョン（私たちが目指すこと）

- vision1 学生が国際社会で力強く活躍できる人材へと成長していく場を創出します。
- vision2 世界をリードする研究拠点として優れた研究者が集う開かれた研究環境を創出します。
- vision3 総合大学としての多様な「知」を結集し、東日本大震災からの復興に寄与する多彩な活動を展開します。
- vision4 産業界との連携を深め、イノベーションを創出します。
- vision5 国内外の多様なパートナーと協働し、社会に「知」を波及させます。
- vision6 多様な価値観が交流し、多文化が共生する開かれたキャンパスを実現します。
- vision7 構成員一人ひとりの活力を相乗的に高める大学経営を確立します。



「考えるということ」 vol.8が発行されました。

東北大学文学部・文学研究科の情報誌として発行している「考えるということ」の第8号が2013年7月末に発行されました。

巻頭インタビューと研究紹介は、臨床宗教師の育成、被災地における方言の研究というテーマであり、いずれも東日本大震災に関連しての内容となっています。

第 8 号 の 主 な 内 容

- ▶企業との対話⑥…P2～9
宗教学 鈴木岩弓教授
「実践宗教学寄附講座」と「臨床宗教師」育成の、これから
- ▶歴代研究者メモリアル⑧…P13～16
東北大学の西洋史学の礎を築いた
大類伸博士
- ▶文学部の研究紹介⑧…P17～23
国語学 小林隆教授
東日本大震災被災地地域への視点 方言で救う、方言を救う
- ▶文学部ゆかりの宝もの⑧…P28
縄文時代研究の基礎資料となる 東北大学考古学資料
- ▶図書館・書店との対話⑧…P9～12
宮城県仙台第二高等学校図書館
- ▶トピックス…P24～27
3・11東日本大震災からの「東北復興の先導」の取り組みの中で、文学部も



「女子学生入学百周年記念」の年、 村上祐子准教授参加の 『科学技術をよく考える』も並びました。

2013年は、東北帝国大学に3名の女子学生が日本で最初の女性学士として入学（1913年＝大正2年）してから100周年の年です。これを記念する事業の一環として、8月8日には、東北大学女子学生入学100周年記念シンポジウムが開かれました。3名の女子学生が理系の入学者であったため、シンポジウムの内容もメンバーも理系女（りけいじょ）が中心となっています。しかし、東北大学生協で行われた「女子学生入学百周年記念フェア」には、文学研究科国際交流室・村上祐子准教授が編集に名を列ねている『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』（名古屋大学出版会／2013年）が見られました。



【発行】東北大学文学部同窓会 〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
tel. 022-795-6087（月・木 午前10時～午後4時） fax. 022-795-6087 【URL】<http://www.sal.tohoku.ac.jp>
【発行年月】2013年9月

©東北大学文学部同窓会

ご挨拶

この夏の日本列島は猛暑あり豪雨ありと荒れた天候が続きますが、同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしたでしょうか。仙台の夏は、少なくともこの原稿を書いている7月下旬までは長雨と低温が続き、冷夏の様相を呈しています。ちょうど本日は東北大学のオープンキャンパスで、川内キャンパスは高校生たちで溢れています。文学部は萩ホールで高校生向けの講演会を行っています。1000人以上入る広いホールがほとんど埋まるくらい盛況です。

最近の私の悩みのひとつは、オープンキャンパスではたくさんの高校生が文学部を訪れて下さっているにもかかわらず(昨年6000人)、文学部の受験生が大震災以降減少していることです。原発事故の影響があるのかもしれませんが、あるいは日本人の間に広がっている将来への不安と就職志向が逆風になっているのかもしれません。後者に関してですが、実際には、文学部卒業生たちの就職は極めて順調なので、今年は、そうした面の広報活動にも例年以上に力を入れていただくよう入試担当者をお願いしています。同窓生の方々にも、機会がありましたら、ご子弟、ご親戚の方々に文学部のご紹介をしていただくようお願い申し上げます。なお、東北大学は「進学した学生が伸びる」として高校の進学指導教諭が推す大学ランキングで6年連続1位を獲得しております。

ところで、東日本大震災から2年4ヶ月が過ぎました。東北大学全体としてみれば、建替工事が行われている建物がまだ少なからずありますが、文学部に関しては完全に復旧作業を終えました。文学部がある川内南キャンパスは、震災前よりも環境整備が進み、学生たちにとって快適な学習環境になったものと思っています。これもひとえに、同窓生の方々と初め、世界中の多くの方々、諸団体からいただいたご支援の賜と感謝しております。

昨秋に政権交代があり、この参議院選挙を経て安定基盤を築いた自民党政権は、教育再生実行会議等からの提言をもとに、大学教育に対しても積極的に介入する姿勢を見せています。教育ではグローバル人材、研究ではイノベーション創出をキーワードとして国の国際競争力を高める研究開発と人材育成を大学に要求し、研究費や大学運営費の再配分だけでなく、大学・学部の新編統合なども取りざたされています。東北大学でも総長が組織再編に着手し、文学部にも一時打診がありました。単に現状に固守するのではなく、文学部の将来像を構想しながらこうした内外の動きに対応していきたいと考えております。この点についても、同窓生の方々から忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと考えております。

退任に当たって

文学部同窓会副会長 **菅井 茂**

この度ようやく会長の任を退くことを認めていただくことになりましたので、この場をお借り致しましてご挨拶申し上げます。

今から8年前、ヨーロッパ史の松本宣郎教授から「同窓会副会長に推薦したので引き受けるように」とのお話があり、平成17年11月野家啓一文学研究科長よりご委嘱いただき就任することになりました。この間やはり「自分には荷が重すぎる」と思っていたが、歴代の同窓会会長さんや幹事の教授の皆様を支えられ、又多くの会員の方々のご支援・ご協力をいただき何とか今日まで務めさせていただきました。ありがとうございました。

振り返ってみますと、文学部同窓会にとってこの8年間は東日本大震災にも遭い激動の時代だったと思います。平成19年の東北大学創立100周年を前に大学全体で諸々のことが検討されました。その一つが文学部・文学研究科における「社会連携ディヴィジョンによる事業」です。それは①名簿の作成②同窓会報の創刊③文学部・文学研究科の広報誌「考えるということ」の配布④文学部・文学研究科ウェブサイトと同窓会のページを設ける等がご担当の原英一教授のもとで検討され、順次実現されていきました。同窓会会報の『ネットワーク』は平成20年に創刊され、文学部・文学研究科と同窓会会員をつないで今回で6回目となります。また同窓会名簿は平成19年度同窓会総会でも論議され、「個人情報保護条例」との関係から発刊が危ぶまれていましたが平成22年に刊行されました。

さらに、東北大学創立100周年を機に平成19年10月6日「東北大学校友会」が設立され、文学部同窓会はそれを支える一組織（20部局同窓会の一つ）となりました。その後「東北大学校友会」は平成21年6月「東北大学萩友会」と改称しさらに大きな組織となりました。また東北大学全体として10月第2土曜日に「ホームカミングデー」を開催し、その日に文学部同窓会総会（2年毎）も行うことになりました。

就任した時、文学部同窓会が大学と高校の連携を強めるために力添えが出来ればと申し上げましたが、そのことができたかどうかは甚だ疑問です。ただ平成21年度同窓会総会には多くの高校関係者にお集まりいただき、盛大に行われたことは良き思い出となりました。今後とも文学部同窓会へのご協力をお願い申し上げ退任の挨拶と致します。

7月30日 川内萩ホール

午前	あいさつ	大淵憲一文学部長
	文学部案内	三浦秀一教授
	公開講義	村山達也准教授(倫理学)
		「何が「ある」と言えるためには何が必要か？」
午後	文学部案内	三浦秀一教授
	公開講義	大河内昌教授(英文学)
		「英文学入門」
	大学院説明会(文学研究科棟)	
	希望研究室訪問(事前予約制)	

7月31日 川内萩ホール

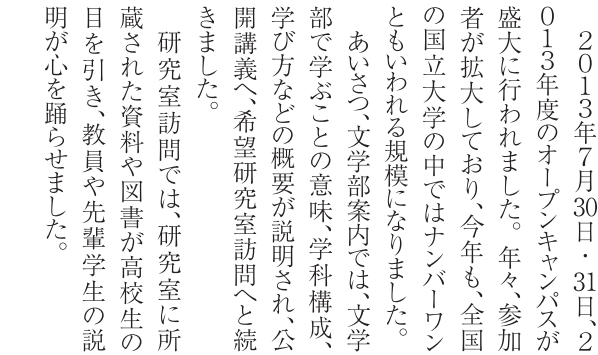
午前	あいさつ	大淵憲一文学部長
	文学部案内	吉水清孝教授
	公開講義	泉武夫教授(東洋・日本美術史)
		「平安絵巻の話法ーアニメの先駆」
午後	文学部案内	吉水清孝教授
	公開講義	行場次朗教授(心理学)
		「おもしろい認知心理学入門」
	大学院説明会(文学研究科棟)	
	希望研究室訪問(事前予約制)	



文学部の受付



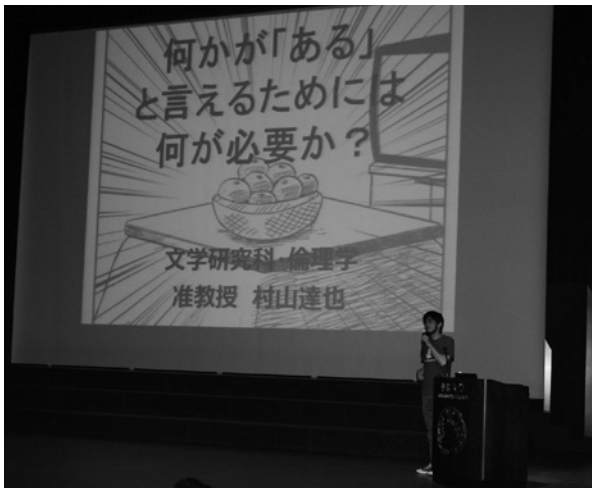
自由に出入り出来る研究室訪問も行われた(以下、同じ)



大渕憲一文学部長



三浦秀一教授



村山達也准教授(倫理学)

■東北大学106周年ホームカミングデーの概要

萩友会総会	●11:00～12:00	
仙台セミナー	●14:00～16:00	荒木飛呂彦氏を招待
在校生と卒業生との親睦会	●11:00～16:00	
ロビーパフォーマンス	●11:00～14:00 / 16:00～18:00	
秋の文化フェスティバル	●11:30～13:00	
記念コンサート	●18:00～20:00	

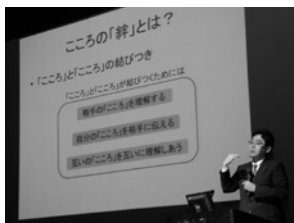
ご案内 東北大学文学部同窓会・懇親会を開催します！

二年に一度の文学部同窓会・懇親会をホームカミングデーに合わせて開催します。

- 日時 平成25年10月12日(土)
- 総会 18時～19時 懇親会 19時5分～
- 会場 東北大生協川内食堂 Bee ARENA Café(川内北キャンパス、川内郵便局近く)

ご出席いただける方は、郵便、FAXまたはEメールにて、10月4日(金)までに、右記連絡先にお知らせ下さい。

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
東北大学文学部内 東北大学文学部同窓会
FAX 022-795-6087
Eメール dousoukai.tohokudaigaku@gmail.com



写真は平成24年度のホームカミングデー時のものです

毎年10月の体育の日前後に開催されている「東北大学ホームカミングデー」は、今年は10月12日(土)の開催です。
仙台セミナーでは、仙台市出身で、『ジョジョの奇妙な冒険』のシリーズなどで知られる漫画家・荒木飛呂彦氏を招待してのイベントが計画されています。

今年のホームカミングデーは10月12日です。

同窓会賛助金

ありがとうございました。引き続き、多くの会員の皆様から
本会への賛助金をいただきました。

2010年9月以来、本会の活動に対する賛助金(1口2,000円より)をお願いしてまいりました。昨年に引き続き本年度も、187人の会員の方々から、合わせて95万5000円もの御寄付を賜りました(2013年8月末日まで)。心から御礼を申し上げます。ここに、御芳名を記して、深甚の感謝の意をあらわたく存じます(敬称略にて失礼いたします)。

賛助金をくださった皆様(50音順(平成21年版会員名簿の索引の順))

秋山靖夫 秋山幸男 秋吉亨 芦田みや子 跡邊孝子 阿部京子 阿部章道 五十嵐満 伊狩弘 石田句香 井関正昭
磯田熙文 板橋興宗 伊藤和雄 伊藤教二 伊藤敏 伊藤秀則 井上公正 居上康昭 今井敏子 岩邊幸高 上野轟
内ヶ崎末雄 江川正志 江刺節子 枝本孝子 及川真介 大泉俊彦 大内五介 大内庸子 大江トミ 大竹隆文 鎌田(大庭)幹子 尾形朝可 尾形良道 尾崎恭一 片野達郎 門脇禰枝 金澤亮治 金成英雄 金山典子 釜田照男 紙屋秀樹
川合安 河原田徹 菅野大輔 黄川田宇内 杵瀨千鶴子 木村武 木村俊彦 工藤麻衣子 國木志帆 久保靖子 黒滝至
桑原莞爾 小泉恵一 小出光 小関昌幸 小林一郎 駒込清太郎 小松弘人 小嶺智枝 小室満男 小山慎平 斎藤顕政
齋藤隆 坂田安儀 佐々木春 佐藤千英子 佐藤嗣二 佐藤弘夫 佐鳥英雄 佐野督郎 重田剛志 重田直 茂林友道
司東和光 澁澤良一 鳥越郎 末澤久和 菅原潤 鈴木正行 鈴木安利 鈴木義昭 須田哲成 砂田暁子 住宏平 高橋賢 高橋俊雄 高橋甫郎 高橋華子 高橋守雄 武重洋一 丹後杏一 千葉秀樹 辻本昌弘 手島己内 留目正実 富張尚樹 内藤幹治 永井昭三 永井信一 中川快然 長倉美恵子 中島茂 中田基邦 中村靖彦 西園弘隆 長谷川進 波多野稔夫 畑山俊輝 花井弘美 花登正宏 速水虎之助 原英一 日野奈保子 平澤幸一朗 平山一藏 広瀬智一 福島光江 福田功二 藤田光寛 藤田健 伏見俊則 古田武彦 星康博 堀米茂 松倉寿 松永淳 松永隆道 松原佐重子 松本幹雄 三浦秀一 三浦吉明 三上正泰 小原(湊)真由美 三原圭子 宮舘新吾 村川玲子 村田章人 目黒政男 本井康雄 矢田修眞 柳澤伸一 柳澤裕子 山口浩 山田和佳 山本鎮雄 吉田ちえ 吉田隆英 米村千雪 渡辺郁世 渡辺銀治郎 渡辺健治 渡辺成就 渡辺友左 渡部教子 渡部治雄 渡辺洋司 渡部芳雄 渡辺義之

以上の161名の方々の他に、26名の会員の方からも賛助がございました。この皆様は、御氏名の掲載を望まないご意志を振込用紙に記されましたので、御芳名を挙げておりません。なお、平成21年版会員名簿の発行以後に、改姓をされた方につきましては、旧姓も記しました。また、逝去された会員の方の御遺族からも御寄付をいただきましたので、会員のお名前を掲載いたしました。御賛助を賜り、まことにありがとうございました。

今後も、本会の活性化を期して賛助金の募集を続けさせていただきます。御協力いただける場合は、1口2,000円として、同封の振込用紙(口座番号02210-6-5103)にてお振り込みくださいますよう、何卒よろしくお願いいたします。

震災復興助成金

「東北大学文学研究科震災復興助成金」へのご協力、ありがとうございました。

昨年9月のネットワーク第5号誌上にてご協力をお願いいたしました「東北大学文学研究科震災復興助成金」については、多くの皆様よりご寄付を賜りました。ありがとうございました。心より御礼申し上げます。昨年から現在までに、51件、132万円のお志を賜り、これまでの総計は、179件、約617万円に上っております。

支援を必要とする被災学生の数も徐々に減少してきており、東北大学文学部は、今後はこれまでに賜りましたご寄付を基に、学生への支援を継続していく考えです。そのため、ご寄付のお願いはこれをもって終了させていただきます。これまでに賜りましたご厚情にあらためて御礼申し上げます。

ご寄付をいただいた皆様(お名前の掲載をお許しいただいた方のみ)

内ヶ崎末雄 廣瀬智一 紙屋秀樹 永井信一 菅原久子 波多野稔夫 井関正昭 古橋憲一 江川正志 小林真登香 中田基邦 佐藤敬子 時田正樹 井上公正 三上正泰 村田章人 佐藤伸宏 黒川和子 大江トミ 茂林友道 内藤幹治 伏見俊則 小嶺智枝 駒込清太郎 三橋藍 居上康昭

column



ホームカミングデーは、川内キャンパスの「東北大学百周年記念会館 萩ホール」がメイン会場となります。
この近くでは、今年は、仙台城址隅櫓下の仙台市博物館が注目です。400年前の1613年(慶長18)、伊達政宗の命令で、木造のガレオン船「サン・ファン・パウロ」が建造され、支倉常長をはじめとする慶長遣欧使節団が太平洋を横断。スペイン艦船でヨーロッパへと渡り、ローマ教皇に謁見するという一大トピックスがありました。
常長がヨーロッパから持ち帰った「ローマ市公民権証書」支倉常長像「ローマ教皇パウロ五世像」が仙台市博物館に所蔵されており、これが、本年6月に「ユネスコ世界記憶遺産」に登録されたのです。これを記念して、仙台市博物館では10月4日～11月17日の期間「伊達政宗の夢 慶長遣欧使節と南蛮文化」の特別展も開かれます。
絶好のタイミングなのではないでしょうか。

特別展 慶長遣欧使節出帆400年・ユネスコ世界記憶遺産登録記念

『伊達政宗の夢—慶長遣欧使節と南蛮文化—』

平成25年10月4日(金)～11月17日(日)

本年は、伊達政宗の外交使節である慶長遣欧使節が船出して400年に当たります。
この展覧会では、6月にユネスコ記憶遺産登録が決まった「国宝 支倉常長像」、「国宝 ローマ市公民権証書」、「国宝 ローマ教皇パウロ五世像」の3点を含む国宝「慶長遣欧使節関係資料」をはじめ、国内及びヴァチカン・イタリア・スペインの多彩な文化財等により、伊達政宗を使節派遣へと駆り立てた背景や使節の実像について紹介します。

特別展観覧料

一般 800円、高校・大学生 600円、小・中学生 400円



国宝 支倉常長像

「ユネスコ世界記憶遺産」「慶長遣欧使節400年」で
注目の仙台市博物館にも足を伸ばしてみませんか。

東日本大震災からの復興、再生へ

東北大学では、東日本大震災に被災した地域社会の復旧、復興、再生に貢献すると同時に、災害に対する人類の課題を解決していくため、2011年4月に「災害復興新生研究機構」を設立。全学的に取り組み「8つのプロジェクト」と、教職員・学生が主体となって取り組む「復興アクション100+」を進めています。その活動内容は、独自のホームページや『東北大学復興アクション』と題した広報ツールによって紹介しています。

この取り組みに関して文学研究科では、卒業生の平川新教授（東北アジア研究センター所長）が8つのプロジェクトのトッププロジェクトである「災害科学国際研究所」所長となり、阿部恒之教授（心理学）が災害科学国際研究所の活動の一つである東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」のアドバイザーとして、さまざまな資料の収集、記録化等に参画していることは前号でお伝えしたとおりです。

8つのプロジェクトの中で「生きる力」市民運動化プロジェクトへの参加

災害科学国際研究所（IRIDS）では、6つのテーマで国際的、領域横断的な研究が進められています。

- 災害科学国際研究所の6つの研究部門
- 災害リスク研究部門
- 人間・社会対応研究部門
- 地域・都市再生研究部門
- 災害理学研究部門
- 災害医学研究部門
- 情報管理・社会連携部門

文学研究科の阿部恒之教授（心理学）は、「人間・社会対応研究部門」における「生きる力」市民運動化プロジェクトに参画。2013年3月に発行された防災手帳『みんなの防災手帳』の企画・編集に携わりました。

これは、震災以後にまとめられたものとしては宮城県内で最初の「実践的防災手帳」であり、災害時に必要な家族のルールや情報を書き込めるものともなっています。

多賀城市がこの導入を決定しており、多賀城市のオリジナル情報も加えて2013年秋には内全世帯で配布される予定となっています。

「生きる力」市民運動化プロジェクトURL<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/infosociety/ikiru.htm>

復興アクション100+の中で 臨床宗教師養成講座の開設、開講

震災直後の混乱の中で、亡くなられた方々の慰霊については、宗派宗教を超えた対応が求められました。また、突然に見送る立場に追い込まれた人々の心のケアも緊急の課題となりました。スピリチュアルケアを担う専門家（宗教者）の存在が、葬儀や法事などの儀式の場を超え、宗派宗教の垣根を超えて必要になったのです。

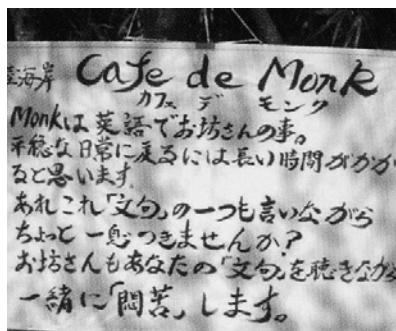
文学研究科では、それらの人々を支援しようとしていた医療者、精神療法者、宗教人などと連携し、鈴木岩弓教授が事務局長、木村敏明准教授（いずれも宗教学）が事務局・庶務担当となり、2011年4月、「心の相談室」を立ち上げました。

心の相談室では、その後、カフェ・デ・モンクと名づけた車で被災各地を訪ね、「カフェ・デ・モンク」を開いて手作りの飲食物を提供し、会話するというボランティア活動をしていた仏教者と連携。10月1日から「カフェ・デ・モンク」と名づけたFMラジオ番組を開始する一方で、さまざまな宗教者との議論の中から文学研究科に「実践宗教学寄附講座」を設けることを決定し、2012年4月から講座を開設しました。

ラジオ番組の取り組みに関しては、2012年12月に心の相談室からラジオ「カフェ・デ・モンク」震災後を生きるヒント」と題したインタビュー集を出版し、鈴木教授が「心の相談室」についての一文を寄せています。

一方、実践宗教学寄附講座は、日本キリスト教団、WCRPなどの宗教団体からの寄附を基盤に活動を始めており、「臨床宗教師」と呼ぶ宗教的ケア専門職の養成を目指し、2012年11月、2013年2・3月、4・7月と3期にわたって研修プログラムを実施。数十人の実践希望者を送り出しています。

「実践宗教学寄附講座URL」<http://www.sai.tohoku.ac.jp/p-religion/top.html>



「心の相談室」による「カフェ・デ・モンク」の出版



カフェ・デ・モンクのさまざまな活動



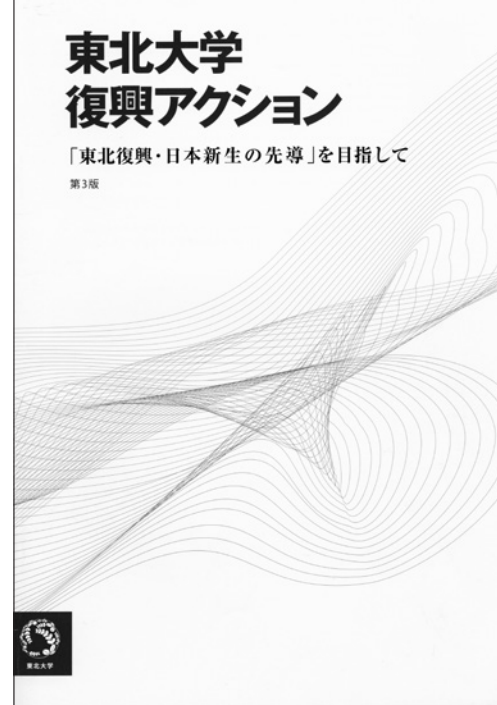
「実践宗教学寄附講座」の研修プログラムの一環として



「実践宗教学寄附講座」の研修プログラムの一環として



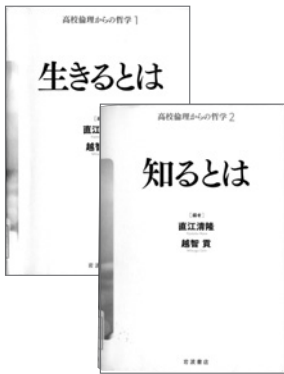
「生きる力」市民運動化プロジェクトの活動から産み出された『みんなの防災手帳』



トピックス 1

2012年10月、教員（直江清隆准教授）、同窓生（篠澤和久氏、小林睦氏）が参画した岩波書店『高校倫理からの哲学』シリーズが完結

読者の手の届くところでものの見方や考え方を提示し、読者がそれぞれの目線から「哲学すること」を学ぶ手引きが必要だ。…そのような考え方から、直江清隆准教授（行動科学）が編集者の一人となり、高校生向けの手引きとして、2012年7月、岩波書店から『高校倫理からの哲学』シリーズ（4巻プラス別巻）が刊行されました。そして10月、直江准教授に加えて、篠澤和久氏（文学部卒・文学研究科単位取得／東北大学情報科学研究科准教授）と小林睦氏（文学研究科修了／東北学院大学教授）が執筆に参加した第2巻「知るとは」の発行によって完結しました。



トピックス 2

2012年10月、東北大学心理学講座編『心理学の視点24』、阿部恒之教授、大淵憲一教授、行場次朗教授、坂井信之准教授、辻本昌弘准教授、仁平義明教授が編集、執筆

2012年10月、阿部恒之教授、大淵憲一教授、行場次朗教授、坂井信之准教授、辻本昌弘准教授、仁平義明教授という、文学研究科の心理学研究分野スタッフが編集、執筆してまとめた『心理学の視点24』（国際文献社）が発行されました。このスタッフの作品は、2007年4月に出版された『心理学の視点20』に続くものであり、大学における心理学の講義で教科書として使われることを前提としてまとめられ、文学研究科心理学分野の研究成果が見事に反映された内容となっています。

トピックス 3

小学館創業90周年企画『日本美術全集』に教員（泉武夫教授、長岡龍作教授、辻惟雄元教授）・同窓生（安村敏信氏）が編集委員、執筆者で関係

小学館創業90周年企画として出版されている大型本『日本美術全集』（全20巻）で、4人の編集委員に泉武夫教授（東洋・日本美術史）と辻惟雄元教授（1971～81年在籍）の2人が参加。第1回配本が長岡龍作教授（東洋・日本美術史）編『2 法隆寺と奈良の寺院』（2012年12月）、第2回配本が辻惟雄編『14 若冲・応挙 みやこの奇想』（2013年2月）、第3回配本が安村敏信（文学研究科修了）編『13 宗達・光琳と桂離宮』（2013年4月）と東北大学勢が続いています。『2 法隆寺と奈良の寺院』では、岩佐光晴氏（文学研究科修了）、清水健氏（文学研究科単位取得）が執筆に参加し、泉武夫教授と塚本麻衣子さん（文学研究科）が解説を執筆しています。



■文学研究科・文学部教員の最近の発表作（2012年7月～2013年6月）

安達 宏昭（教授 日本史）●「大東亜共栄圏」の経済構想
有光 秀行（教授 ヨーロッパ史）●中世ブリテン諸島史研究
泉 武夫（教授 東洋・日本美術史）●竹を吹く人々
大木 一夫（准教授 国語学）●ガイドブック日本語史
大河内 昌（教授 英文学）●アドルノー後期マルクス主義者と弁証法（共訳）
尾崎 彰宏（教授 美学・西洋美術史）●ゴッホが挑んだ「魂の描き方」
大淵 憲一（教授 心理学）●紛争と平和構築の社会心理学（共著）
川口 幸大（准教授 文化人類学）●東南中国における伝統のポリティクス
小林 隆（教授 東北大学方言研究センター）
●方言を救う、方言で救う—3.11被災地からの提言（共著）
座小田 豊（教授 哲学）●神の存在論的証明（共著）
●ヘーゲル「精神現象学」入門（共著）

佐藤 嘉倫（教授 人間科学）・木村 敏明（准教授 宗教学）
●不平等生成メカニズムの解明
嶋崎 啓（教授 ドイツ文学）●ドイツ語 不定詞・分詞（共著）
田中 重人（准教授 日本語教育学）●A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families
千種 真一（教授 言語学）●古典アルメニア語辞典
直江 清隆（准教授 哲学）●高校倫理からの哲学第1巻～4巻、別巻（共著）
長岡 龍作（教授 東洋・日本美術史）●日本美術全集2法隆寺と奈良の寺院
沼崎 一郎（教授 文化人類学）●交錯する台湾社会（共著）
正村 俊之（教授 社会学）●近代科学の情報論的転回（共著）
●東日本大震災と社会学（共著）
●不平等生成メカニズムの解明（共著）
山田 仁史（准教授 宗教学）●アジアの人類学（共著）
●神の文化史事典（共著）

トピックス 4

2013年5月、文学研究科出版企画委員会編『男と女の文化史』が日本図書館協会選定図書に

文学研究科には、小林隆・阿部恒之・直江清隆・嶋崎啓・堀裕の教授陣が企画委員となり、高橋章則教授が企画協力者となっている「文学研究科出版企画委員会」があり、東北大学出版会から『人文社会科学講演シリーズ（I～VI）』を刊行しています。この最新刊の『男と女の文化史』が2013年3月に横溝博教授（国文学）、高橋章則教授（日本思想史）、佐竹保子教授（中国文学）、嶋崎啓教授（ドイツ文学）、尾崎彰宏教授（西洋美術史）の執筆メンバーで発表されましたが、2013年5月に日本図書館協会選定図書に選ばれました。

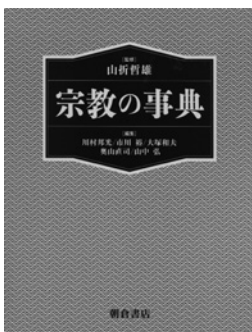


トピックス 5

大型本『宗教の事典』に文学部同窓生（山折哲雄、川村邦光、奥山直司、山下博司氏等）が監修者、編集委員、執筆者として参加

2012年10月、東北大学出身者が監修・編集・執筆に名を列ねた、1000ページに及ぶ大冊『宗教の事典』が出版されました（朝倉出版）。

山折哲雄氏（文学部卒・文学研究科修了）の監修で、川村邦光氏（文学部卒）、奥山直司氏（文学部卒・文学研究科修了）が編集委員として、山下博司氏（文学研究科単位取得、国際文化研究科教授）が執筆者として参加。山折氏は「エコ・レリジョン」、川村氏は「日本宗教」、奥山氏は「仏教」「チベット・モンゴルの宗教」、山下氏は「ヒンドゥー教」にの項を執筆しています。



■文学研究科・文学部出身者の最近の発表作（2012年7月～2013年6月）

青木美智男（文学研究科修了）●近世非領国地域の民衆運動の郡中議定
●三くだり半の世界とその周縁
青山 忠正（文学部卒・文学研究科修了）●明治維新
浅田 秀子（文学部卒）●漢検・漢字ファンのための同訓異字辞典
天野 和公（文学部卒）●ミャンマーで尼になりました
●ブッダの娘たちへ
有馬 哲夫（文学研究科修了）●児玉誉士夫 巨魁の昭和史
●原発と原爆「日・米・英」核武装の暗闘
飯倉 晴武（文学研究科修了）●ゆほびか（共著）
●日本人の数え方がわかる小事典
内館 牧子（文学研究科修了）●カネを積まれても使いたくない日本語
●忘れないでね、わたしのこと上・下
大角 修（文学部卒）●阿弥陀仏と極楽浄土の物語
●浄土三部経と地獄・極楽の事典
●法華経のご利益・功德事典
奥山 直司（文学部卒・文学研究科修了）●コンタクト・ゾーンの人文学（共著）
小野 正弘（文学部卒・文学研究科修了）●オノマトベと詩歌のすてきな関係
川村 邦光（文学部卒）●売笑三千年史
●弔い論
菅野 仁（文学研究科修了）●18分集中法：時間の「質」を高める
木田 元（文学部卒・文学研究科修了）●ハイデガーの拾い読み
木村 俊彦（文学研究科修了）●大円宝鑑国師愚堂和尚語録—年譜及び訓註付き—
●ルドルフ・オットーと禅
高城 高（文学部卒）●冬に散る華
●夜明け遠き街よ
佐藤 賢一（文学研究科修了）●小説フランス革命9～11
●デュマ『モンテクリスト伯』
●新徴組

高橋 富雄（文学部卒・文学研究科修了）●高橋富雄東北学論集<第11集>
中村 彰彦（文学部卒）●武士たちの作法 戦国から幕末へ
●会津論語
●会津のこころ
●会津武士道
中村 靖彦（文学部卒）●いつまでもあると思うな、水と食
早尾 貴紀（文学部卒・経済学研究科修了）●ディアスポラの力を結集する（共著）
星 亮一（文学部卒）●伝説の天才柔道家 西郷四郎の生涯
●井深梶之助伝
●会津藩はなぜ「朝敵」か
●八重と会津落城
前田 勉（文学研究科修了）●江戸の読書会
●日本の思想（共著）
松長 有慶（文学研究科修了）●空海 般若心経の秘密を読み解く
安村 敏信（文学研究科修了）●肉筆幽霊画の世界
●日本美術全集13宗達・光琳と桂離宮
●江戸絵画の非常識
山折 哲雄（文学部卒・文学研究科修了）●危機と日本人
●わが人生の三原則—こころを見つめる
●あなたの知らない道元と曹洞宗
●あなたの知らない親鸞と浄土真宗
山形 孝夫（文学部卒・文学研究科修了）●黒い海の記憶—いま、死者の語りを聞くこと
●死者と生者のラスト・サパー
山田 史生（文学部卒・文学研究科修了）●はじめの「禅問答」
屋山 太郎（文学部卒）●安倍政権で再び大国を目指す日本
●屋山太郎が読み解く橋下改革